

2020年3月期第1四半期 決算説明資料

株式会社ゼネラル・オイスター
(3224)



2019年8月26日



1. 第1四半期 トピックス



自社の牡蠣加工工場で作った、こだわりのカキフライ
世界に認められた美味しさ
iTQi優秀味覚賞を受賞！
カキフライは日本初！

大和
社 星



iTQi(国際味覚審査機構)とは、ヨーロッパで最も権威のあるシェフとソムリエ協会に属する「味覚のエキスパート」による「美味しさ」の審査・認証する独立機関です。

1

店舗事業は店舗数の減少により減収となるが、既存店売上高は好調に推移。

4月度 103.9%、5月度 109.8%、6月度 110.8%

2

卸売事業は、販路拡大で、取引数も増え、前年同期比で+12.8%。

3

利益面では、加工事業の本格稼働に伴って1年分の仕込みが集中し、費用が先行。

4

岩手大槌の加工工場で作っている牡蠣フライが、5月にヨーロッパの「iTQi」という国際味覚審査機構で、牡蠣フライでは初めて「優秀味覚賞」を獲得。国際的に美味しさが評価。

5

2019年1月より休業していた「博多ステーションオイスターバー」（福岡）が、7月26日に「レカイエ オイスターバー JR博多シティ店」としてリニューアルOPEN。

連結損益計算書概要

前年同期比で店舗数が減少（3店舗）したものの、既存店が好調に推移し、売上高は微減。
一方、利益面では、加工工場の本格稼働により1年分の仕込みが集中したことから費用が先行。

(百万円)	2019年3月期 第1四半期	2020年3月期 第1四半期	増減額	ポイント
売上高	822	803	▲19	・店舗事業は店舗数が（3店舗）減少。
売上総利益	558	523	▲35	・加工工場の仕込みの先行費用で、原価がUP。
販管費	620	594	▲26	
営業利益	▲61	▲71	▲10	
経常利益	▲59	▲70	▲11	
当期純利益	▲51	▲63	▲12	

貸借対照表概要

加工事業の集中仕入れ等により「棚卸資産」が増加した一方、「現預金」や「売掛金」が減少したことから総資産は前期末比で僅かに減少。

(百万円)

資産の部	2019年3月期 期末	2020年3月期 第1四半期	負債・純資産の部	2019年3月期 期末	2020年3月期 第1四半期
流動資産	510	457	流動負債	759	818
現金及び預金	131	102	支払手形・買掛金	123	167
売掛金	206	176	短期借入金 ^{*1}	258	288
棚卸資産	100	150	その他	377	362
その他	72	28	固定負債	691	632
固定資産	1,255	1,239	長期借入金	181	136
有形固定資産	1,022	1,008	その他	509	496
無形固定資産	4	3	負債合計	1,450	1,451
投資その他の資産	228	227	純資産合計	315	246
資産合計	1,765	1,697	負債純資産合計	1,765	1,697

*1. 1年内返済予定の長期借入金を含む

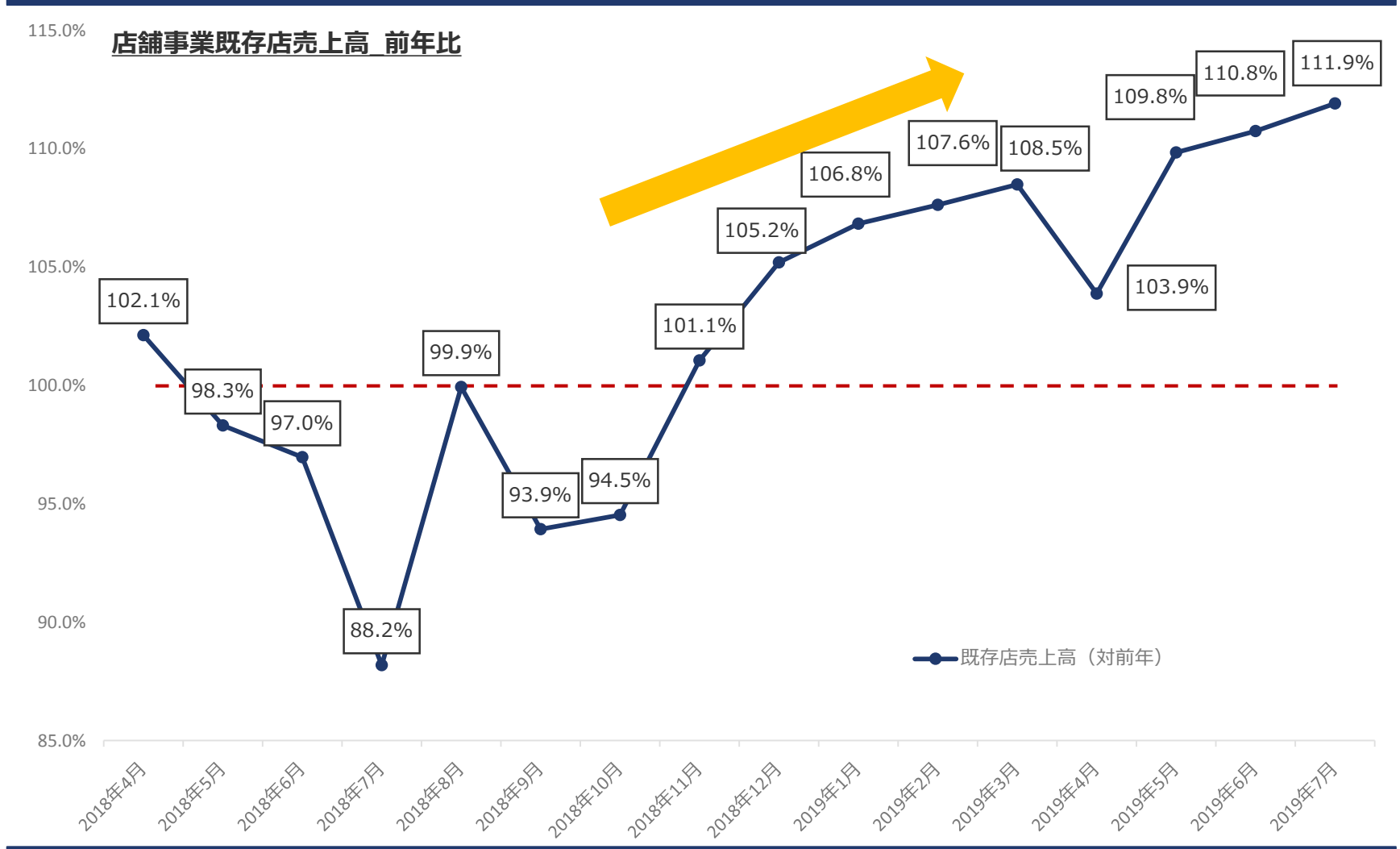
セグメント別業績概況

(百万円)

		2019年3月期 第1四半期	2020年3月期 第1四半期	前年同期比 (%)	ポイント
店舗事業 オイスターバーレスト ランでの飲食サービス	売上高	765	735	96.1	前期における不採算店の閉店により店舗数は前期同期比で減少（3店舗減）となりましたが、既存店が好調に推移。 【店舗数：25店舗（2019年6月末時点）】
	営業利益	49	49	101.5	
卸売事業 生牡蠣や牡蠣の加工品 の外販卸売り	売上高	53	60	112.8	取引先の拡大など販路拡大に積極的に取り組み、順調に増収増益。
	営業利益	22	24	111.1	
浄化・物流事業 生牡蠣用の浄化セン ター、および物流事業	売上高	105	118	112.6	自社店舗の物流が、生牡蠣以外にも、牡蠣フライなどの加工品の物流高が増え、費用が増加。
	営業利益	▲46	▲52	—	
その他 陸上養殖、加工事業、 種苗など	売上高	18	63	337.5	加工工場について本格稼働しはじめましたが、1年分の仕込みがこの時期に集中し費用が先行。
	営業利益	▲35	▲53	—	
調整額	売上高	▲120	▲174	—	
	営業利益	▲51	▲39	—	
連結財務諸表 計上額	売上高	822	803	97.7	
	営業利益	▲61	▲71	—	

ご参考 | 既存店売上高推移

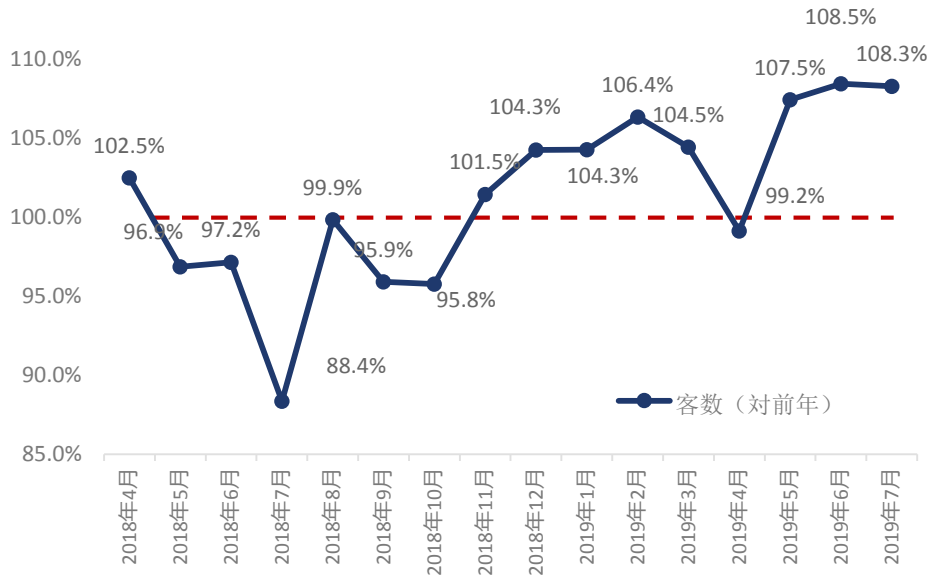
前期において不採算店の撤退を実施したこと等から、2018年11月以降、既存店売上高は前年越えを継続している。



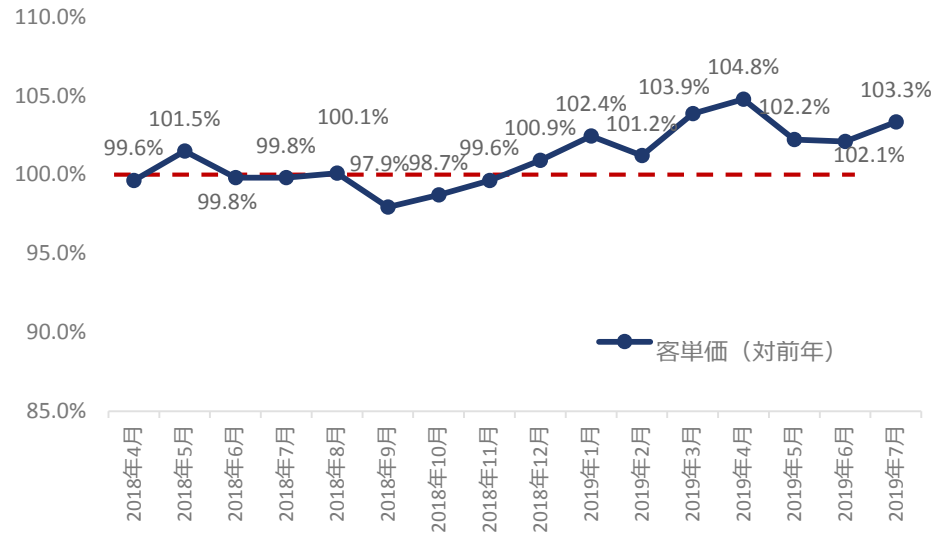
ご参考 | 既存店客数・客単価推移

既存店の客数・客単価は堅調に推移している。

店舗事業既存店客数 前年比



店舗事業既存店客単価 前年比

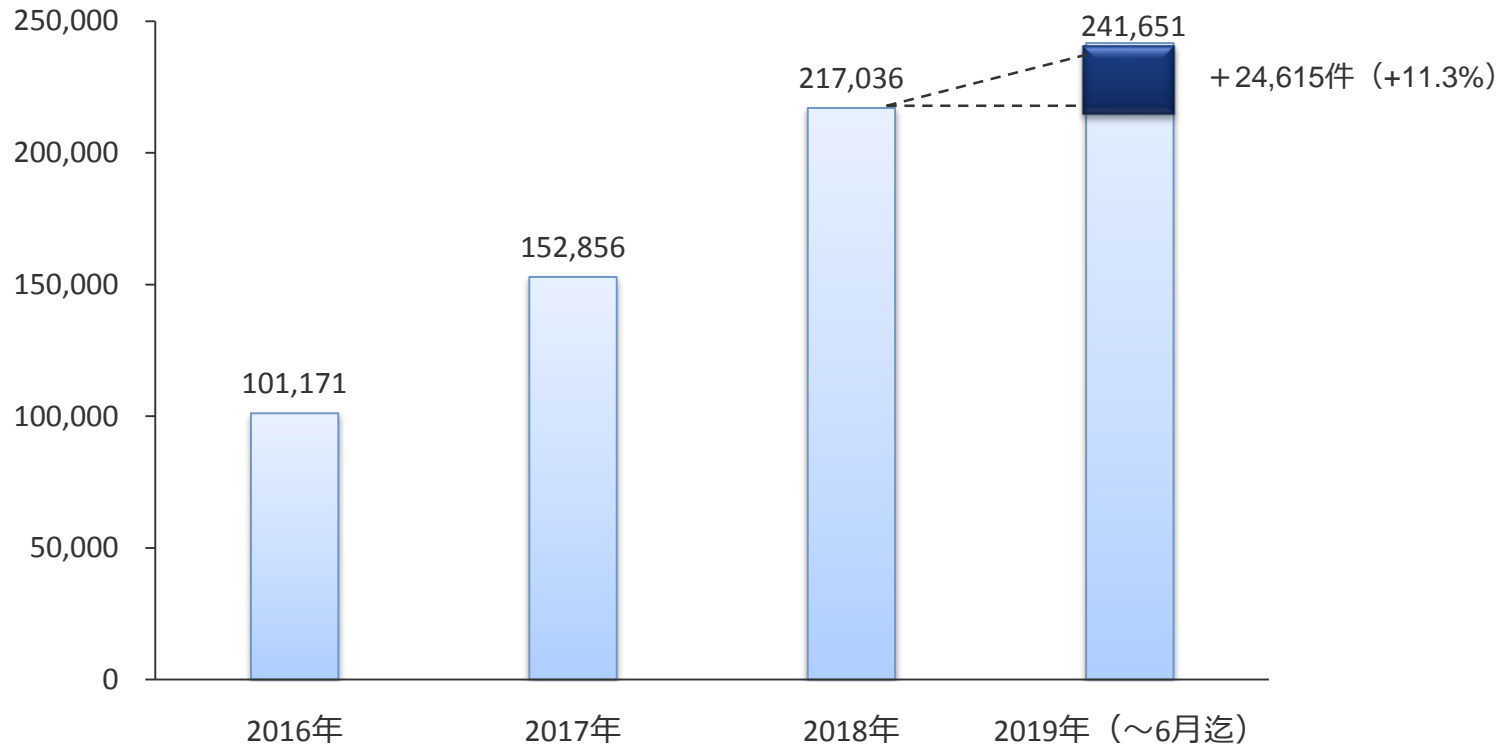


ご参考 | OPC会員数推移

店舗で利用できる「オイスターピースクラブ（OPC）会員数」は順調に拡大し、24万人を突破（前期末比約2.4万人増）。業績の底上げに寄与。

OPC会員数推移

(単位：人)





2. 2020年度3月期 業績見通し

今期の業績の見通し

引き続き、増収及び損益改善（営業利益ベースでの黒字転換）を目指す。

(百万円)	2019年3月期 通期実績	2020年3月期 業績予測	前年同期比 (%)
売上高	3,706	3,737	+0.8%
営業利益	△21	35	-
経常利益	△18	19	-
当期純利益	△269	9	-
(参考)EBITDA	72	127	+76.3%



General Oyster

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。